

研究概要

本研究部は「一人一人のニーズに合った教育相談的支援をふまえた授業」と「誰にでもできる簡単なスクリーニングのコツ」について、授業実践を通して研究した。一人一人のニーズに合った支援では、東京学芸大学教授 小笠原 恵先生、簡単なスクリーニングのコツでは、所沢市立教育センター教育相談室の染谷 怜 臨床心理士にも御指導、御助言いただきながら、検証を進めた。

本研究の〈キーワード〉

教育相談的支援 スクリーニング 個別支援 発達障害 不登校 小中連携  
合理的な配慮 授業のユニバーサルデザイン

I 研究主題

すべての児童生徒への教育相談的手法の研究

II 主題設定の理由

学校現場には、発達障害疑いや不登校、複雑な家庭環境など背景は様々であるが、教師としてはすぐにでも手を差し伸べたい児童生徒がすぐそばにいる。しかしながら、どのように児童生徒にアプローチをすればよいか、手探りのケースも少なくない。そこで、今年度の研究では、すべての児童生徒へどのような手立てで支援することがより有効か、さらに考えを深め、教育相談的手法を先生方の引き出しの一つとして提案できるよう、本主題を設定した。

平成28年4月1日施行の障害者差別解消法では、障害のある人に合理的配慮を行うことを通じて共生社会の実現を目指しており、学校現場においても、合理的配慮を提供するよう求められている。合理的配慮という用語自体は真新しいように聞こえるが、学校現場ではごく日常的に行われてきた配慮（支援）である。例えば、授業の中で視覚的優位の児童生徒の特性を生かし、視覚的なツールを用いることや、注意持続が困難な児童生徒においては、切り替えの多い授業内容にするといったものである。こうした授業形態は、個々に寄り添った支援として効果的であったことが数多く報告されている。近年発達障害の可能性のある児童生徒を含む学級の全員が楽しく学び合い、「わかる・できる」授業を目指した「授業のユニバーサルデザイン」が提唱されている。その中には、これまで配慮と呼ばれていたものが含まれていることが多い。桂（2011）は、授業の組み立てとして、焦点化、視覚化、共有化の3つの視点をもつことを提唱しているが、「本来は目の前の子どもに合わせて独創的な視点や手立てをつくっていくことが大切である」とも述べている。しかしながら、実際の現場では、どの児童生徒にどの支援方法を当てはめてよいか分からず、結果として反復練習させるなど単一的な方法で対応していることも少なくない。これは、個に応じた支援という合理的配慮の視点から考えると憂慮すべき点である。

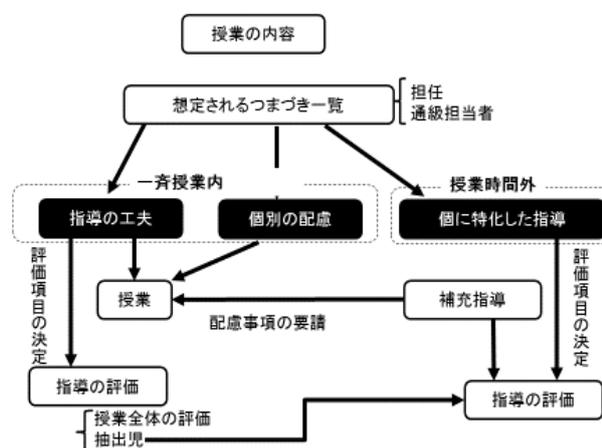
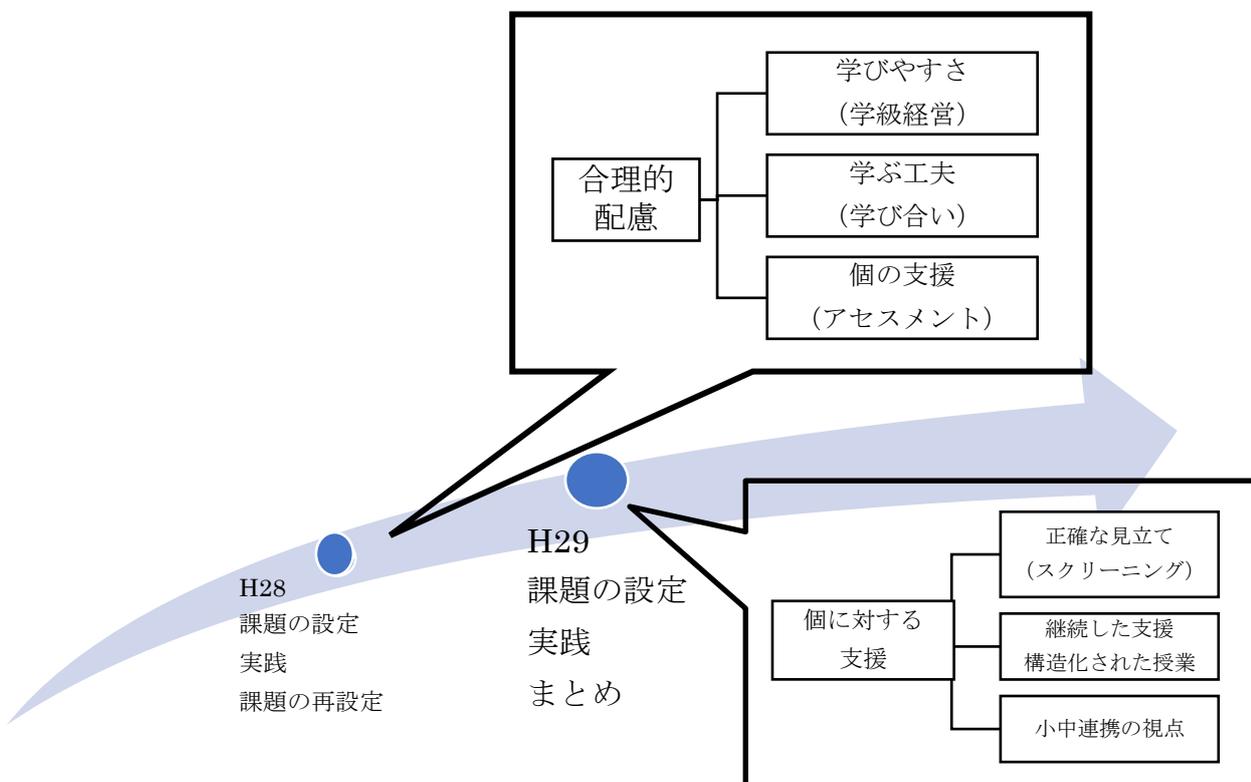


図1 三段構えの指導 小貫・桂(2014)

本研究部のこれまでの研究では、通常学級における合理的な配慮について授業実践を行い、その結果、特別支援学級における個への支援で効果のあった「時間や板書の構造化」や「短い言語指示」が通常学級の児童生徒にも有益な支援であることが示唆された。また、一斉授業における指導についても同様の見解が認められたが、小貫・桂（2014）が三段構えの指導（図1）で提唱しているように、個に特化し焦点を当てる指導も必要であろうと考え、昨年度は、個の課題に応じて「学びやすい環境に焦点を当てた学級経営、授業形態を工夫した学び合い、アセスメントを活かした個別支援」という3つの視点から、授業の中で通常学級における合理的配慮を検証した。学習のゴールをイメージできるような手本の提示や誰もが質問できる学級の雰囲気づくり、ICT環境の整備などソフト面とハード面の両方の側面から支援を行った。その結果、個を含むすべての児童生徒が安心して授業に取り組むことができるようになった。これらの研究から、通常学級における合理的配慮は集団にも大いに有効であること、個への支援を見いだすには、児童生徒一人一人へのより深い見立てや理解が大切であることが分かった。そこで、2年目の今年度は、配慮を要する児童生徒により適切な支援が行えるよう、授業を通して児童生徒の特性を見立てるスクリーニングの方法を研究した。また、教育相談的手法の支援を継続して検証することで、本人により適した支援になっているかを確認しながら、見立てに即した支援のポイントについても研究した。本年度の研究員の構成は、小学1年、小学6年、中学3年の担任ということもあり、入門期や小中連携の視点からも主題に迫っていくことができるものと考え、児童生徒の特性を正確に見立てることで、児童生徒の現在の困り感だけでなく、今後の課題となりうることも見通し、適切な支援を見いだすことを目的とした。

### III 研究の方法及び内容

#### 1 研究の計画



## 2 研究の方法と内容

### (1) 授業の実践

初年度は、各学級に在籍する児童の課題に焦点を当てた授業実践を行い、通常学級における合理的配慮の在り方について研究した。

- 小学1年生「算数」：書字が苦手な児童に対し、個に応じた書字の工夫を検証
- 小学4年生「社会」：保護者の文化圏が異なり言語や学習の遅れが見られる児童が学びやすくなる学級づくりや授業形態を検証
- 小学5年生「国語」：学習に躓きのある不登校傾向の児童に対し、学び合いなどの工夫を取り入れた授業の検証

2年目は、全体指導における具体的な支援や個に応じた支援の在り方を継続的に研究した。その際、小学6年生と中学3年生の授業実践を通して、小中連携の視点での支援も含めた研究を行った。

- 小学6年生「算数」：低学力や不登校傾向の児童に焦点を絞った教育相談的支援の継続的な検証
- 中学3年生「外国語」：すべての生徒が「できた・分かった」を味わうことができる、構造化された授業の検証

### (2) スクリーニングの実践、及び支援のためのチェックシートの作成

はじめに、臨床心理士から児童生徒の見立て方「誰にでもできる簡単なスクリーニングのコツ」を学んだ。それをもとに、市内3校（小学1年生254名、6年生150名／計12学級）計404名のスクリーニングを行った。そこで、小学1年生の入門期と小学6年生の卒業期という節目の時期に、どのような視点で児童を見立てていくが必要になるかを研究した。その際、臨床心理士の見立ても同時に行うことで、研究員自身の見立ての裏付けが取れ、「誰にでもできる簡単なスクリーニングのコツ」を身に付けることができた。

最後に、(1)とスクリーニングの実践をもとに、児童生徒を見立てるポイントを「気になる児童生徒」として18に絞り、『気になる児童生徒への支援チェックシート』を作成した。各校の先生方に聞き取り調査を行い、実際に行っている支援を簡潔にまとめ、基本となる手立てとして提案できるようにした。(資料1)

## IV 実践例

### 実践例1 小学1年生 書字の困難な児童に対する支援の工夫

(1) 文字を書くことへの児童の抵抗感を減らし、学習意欲を高める工夫を行った。

課題	手立て		変容
書字困難 (小1) ・視写が 難しい	授業前	・薄い線をなぞることを増やし、形を模写する機会を増やした。	・授業への意欲が高まり、挙手をより多くするようになった。
	授業時	・児童と同じノートに板書内容を書き、書画カメラで映すことで、見たままノートに写すことができるようにした。	・書画カメラを使うことで、濁点や音節を間違えずにノートのマスに書くことができるようになった。
	授業後	・書字の学習の際に「とめ・はね・はらい」が不適切なものがある場合に、薄い字で正しい字を書き、それをなぞるように指導した。 ・筆順にこだわらず形を重視し、正しく書けたものに対し、称賛することで書字に対する抵抗感を減らした。	・褒められる機会が増えたことで、書字に対する抵抗感を示すことなく、積極的に取り組む姿勢が見られるようになった。 ・バランスの整った字は、まだ難しいものの、複雑な形の字も書けるようになった。

(2) 児童の書字の課題に合った支援を検討し、授業時に支援を行った。

課題	手立て	変容	
書字困難 (小1) ・弱視の 診断あり	授業前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容をあらかじめ提示しておく。</li> <li>・座席を黒板の近くにし、見やすくする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への意欲が高まり、挙手が積極的になった。</li> </ul>
	授業時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童と同じノートに板書内容を書き、手元に置かせ、そのまま写すことができるようにする。</li> <li>・書字より思考を重視した課題(算数など)に関しては、書く内容を厳選した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手元で見ながら書き写すことで、スムーズに書くことができた。</li> <li>・プリントを選択させることで、写しやすいものを選んで使えるようになった。</li> </ul>
	授業後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自力で書字できる内容を増やし、負荷が多い時は、書かなくてもよい部分を示した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを、支援なく書けることが増えてきた。</li> </ul>

9月の算数ノート	1月の算数ノート
10月の国語ノート	1月の国語ノート

実践例2 小学4年生 保護者の文化圏が異なり言語や学習に躓きのある児童、学習の遅れや自己肯定感の低さが見られる児童が学びやすくなる学級づくりや授業形態

(1) 言語や学習の遅れのある児童に対して、教材教具を工夫したり、グループ活動を取り入

れたりして、意欲的に学習に取り組めるよう支援を行った。

課題	手立て		変容
低学力 ・コミュニケーション能力が低い (小4)	授業前	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿題について家庭と相談し、取り組むことができる量だけ出すようにする。</li> <li>座席を配慮する。(教師の指示が通りやすい場所、本児とよい関係を築けている児童と同じ班)</li> <li>見通しを持てるように、図や写真で提示する。</li> <li>興味や関心のあることは意欲的に取り組めるので、称賛する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿題に取り組めなかった日でも安心して登校できるようになった。学校で残りの宿題を意欲的に取り組むこともできた。</li> <li>安心して活動できるようになり、苦手なことにも少しずつ意欲的に取り組むことができるようになった。</li> <li>身の回りの整理整頓ができるようになってきた。</li> </ul>
	授業時	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な資料をすぐに探せるように図書資料に付箋を貼り、目印をつけておく。</li> <li>ペア学習を取り入れる。</li> <li>興味を持って意欲的に活動に取り組めるよう、あらかじめ資料を提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>付箋を目印に必要な資料を見つけることができた。</li> <li>安心して学習に取り組むことができ意欲的に活動することができた。</li> </ul>
	授業後	<ul style="list-style-type: none"> <li>1週間ごとに目標を立てて生活させ、一緒に振り返りを行う。</li> <li>係活動を積極的に行わせ、活躍する場を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りをすることで自己肯定感が高まり、意欲的に生活できるようになり、友達とも協力しながら活動できるようになってきた。</li> </ul>

(2) 自己肯定感が低い児童に対して、自分と他者の存在を認め、誰もが大切にされるべき存在であるということに気がつけるような学級づくりを行った。

課題	手立て		変容
低学力 ・言語の遅れ・コミュニケーション能力が低い (小4)	授業前	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の量を減らし、スモールステップで取り組ませる。</li> <li>自分の言葉で伝えられないときは、身振り手振りを入れながら会話させる。</li> <li>座席を配慮する。(同上)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少しずつだが、安心して学習に取り組めるようになってきた。</li> <li>身振り手振りを加えながら、会話ができるようになってきた。</li> </ul>
	授業時	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な資料をすぐに探せるように図書資料に付箋を貼り、目印をつけておく。</li> <li>ペア学習を取り入れる。</li> <li>教師のモデルを示す。</li> <li>使いやすいワークシートを選ばせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的に学習に取り組もうとしていた。</li> <li>ペア学習を行ったことで、近くの友達の活動を参考にすることができた。</li> </ul>
	授業後	<ul style="list-style-type: none"> <li>係活動などの活躍の場を設ける。</li> <li>個別に支援する。(授業はT2に入ってもらい、できなかった課題は休み時間に取り組ませるなど)</li> <li>授業の振り返りをさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級での居場所を見つけることができ、友達と協力しながら活動している。</li> <li>学習内容が定着するようになってきた。</li> </ul>



実践例3 小学5年生 学習に躓きのある不登校傾向の児童に対する、学び合い等の工夫

(1) 登校しぶりのある、学習の苦手な児童に対して、安心して登校できる学級づくりを行い、活躍できる場を設けた。

課題	手立て		変容
登校しぶり (小5)	授業前	<ul style="list-style-type: none"> <li>週2～3日、担任が自宅まで迎えに行くようにする。</li> <li>座席を配慮する。(本児とよりよい関係の児童を同じ班にする)</li> <li>宿題については本人のできる範囲にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会后、一人で歩いて登校できるようになってきた。</li> <li>安心して学習に参加できるようになった。</li> <li>約束した分の宿題をやるようになった。1月後半からは、ほぼ全部の宿題をやるようになった。</li> </ul>
	授業時	(学級全体に対し) <ul style="list-style-type: none"> <li>学び合い(ペアやグループ学習)を多く取り入れる。</li> <li>発表の機会を多く取り入れる。</li> <li>褒められ、認められる機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちとの関わりが多くなり、自分から考えを発言したり、友だちの意見を聞いたりする姿が見られるようになった。</li> <li>友だちから称賛されることで意欲的に取り組むようになった。</li> </ul>
	授業後	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちとの関わりの中で、間違っただ行動をしているときは、すぐに指導して自覚させる。</li> <li>称賛を本人に伝える機会を持ち、児童の行動を価値づける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の行動に気づき、自己コントロールしようとしている様子が見られるようになった。</li> <li>自分の考えや行いを自覚して、行動できるようになってきた。</li> </ul>

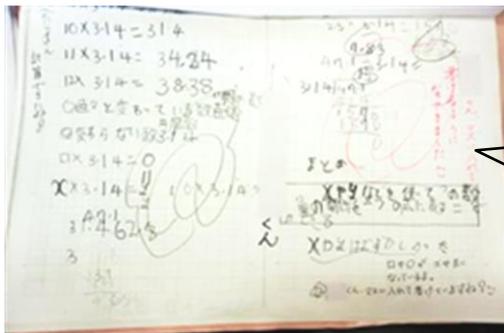
(2) 低学力で学校をやすみがちな児童に対して、学習への抵抗感を軽減するためにスモールステップでの学習や家庭学習に取り組ませた。

課題	手立て		変容
低学力 (小5)	授業前	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な問題をプリントで復習させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習への不安を取り除くことで、安心して学習に取り組めるようになった。</li> </ul>
	授業時	(学級全体に対し) <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の始めに、簡単な問題をプリントで復習させる。</li> <li>学び合いを取り入れる。</li> <li>全体に指導したあと、個別に確認し、課題に取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別指導で問題の解き方が分かるようになると進んで学習に取り組んだ。</li> <li>分からないことを聞いたり、分かったことを友だちに伝えたりする姿が見られるようになった。</li> </ul>
	授業後	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な問題を個別プリントで復習させる。(自主学习ノートの活用)</li> <li>休み時間にできなかった課題に取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進んで課題に取り組むようになった。</li> </ul>



実践例4 小学6年生 不登校傾向など、児童の課題に焦点を絞った支援の継続的な検証

<p>学習活動</p>	<p>教師の発問 (T1、T2) 児童の反応例 (C) と手立て (⇒)、留意点 (☆)、評価基準□ 配慮が必要な児童への手立て (◆) すべての児童への教育相談的な支援 (★)</p>
<p>①問題場面を知る  ②課題をとらえる</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>問題</b> 右の図のような三角柱の体積を求めよ。</p> </div> <p>◆ T2 : 学習の準備をT君に声をかける。 ☆三角柱を提示し、その体積を求めることを T1 : 前回、四角柱の体積を求めました。で 体積は求められるかな。(略) ☆前時の学習内容を使えば問題が解決できそ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>課題</b> 三角柱の体積の求め方を考えよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; border-radius: 15px; width: fit-content; margin-left: 20px;"> <p>◆T1 が全体指示を出しやすいよう T2 が個別支援を行う。 ★視覚的に問題を捉えることができるようにするために、図を提示する。 ★黒板に掲示してあるものと同じ図が書かれたプリントを児童に配布し、気づきを書き込みながら活動ができるようにする。</p> </div>
<p>③自力解決する</p>	<p><b>解く</b> T1 : 三角柱の体積の求め方を考えよう。 ◆ T2 : T君に声をかける。課題に入 ◆ T1 : Y君に声をかける。課題に入 &lt;考え方①&gt; C : 直方体の半分の体積とみると、 <math>4 \times 6 \times 5 \div 2 = 60</math> ⇒立体模型や図を提示し、縦4cm、横6 の直方体の半分であることを確かめさ &lt;考え方②&gt; (略) ☆ヒントコーナー (自力解決が難しい時は) ◆ T1 : T君、Y君にヒントコーナーへ T2 : 直方体の体積を使って三角柱の体積は求められないかな 四角柱の体積の求め方を思い出し</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; border-radius: 15px; width: fit-content; margin-left: 20px;"> <p>T1 が机間指導をしている間、T2 は自力解決が難しい児童を「ヒントコーナー」に集める。 ◆ヒントカードを用意し、問題が解けない児童の思考の手助けをする。 ◆ヒントはレベル別に2、3個用意しておき、解き方が分かったら、自分の席で問題を解くようにする。 ◆ヒントコーナーに来た児童を褒め、安心してヒントをもらえるような雰囲気をつくる。</p> </div>
<p>④考えを発表し合い、話し合う</p>	<p>☆それぞれの考えから出てきた式を比べ T1 : 2つの式を比べて、気付いたこと T1 : 隣の友だちと相談しよう。 <math display="block">4 \times 6 \times 5 \div 2 = 60</math> <math display="block">\underline{6 \times 4 \div 2} \times \underline{5} = 60</math> 底面 高さ</p> <p>☆式を読むことに抵抗を感じる児童も多いので 図と対応させながら丁寧に扱う。(以下略)</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; border-radius: 15px; width: fit-content; margin-left: 20px;"> <p>★発話が難しい場合は、友だちの意見を聞いたり、指で図を指したりして、表現してもよいことを伝える。 ★相談が終わったペアから座る。</p> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>



(後述のT君の算数ノート)  
少しずつ、マス目に沿って書けるようになってきた。児童の上手に書けたノートはコピーして、「花丸ノート掲示板」に掲示している。担任からコメントを添え、他の児童の目に触れるようにしている。

実践例4の学級における児童への具体的な手立てと支援を継続した後の変容

課題		手立て	変容
書字の困難 集中力△ (Tくん)  集中の持続が難しく、分からない課題は投げ出してしまふ。ノートは、マス目に沿って書くことが苦手。机の上や中はいつも乱雑。	授業前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の準備を確実にできるよう声かけする。</li> <li>・座席を配慮する。(担任の指示が通りやすい黒板の前)</li> <li>・漢字の学習では、担任が事前にノートに枠を書いたり、複雑な漢字はいくつか赤ペンでなぞり書きをしたりできるようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートの書き始めが早くなった。</li> <li>・授業に意欲がもて、挙手ができるようになった。</li> <li>・自分の力でやり遂げたい気持ちが強く、なぞり書きを嫌がるようになった。</li> </ul>
	授業時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆順にこだわらず、正しく書けた字を称賛することで、書字に対する抵抗感を減らす。</li> <li>・算数の計算問題は、マス目に沿って書けるよう1問ずつ丁寧に組み立てるようになる。(問題番号を担任がノートに書き入れておく)</li> <li>・板書を写すのが難しい場合は、担任が予め板書を書き込んだノートを横に置き、手元を見て書き写せるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バランスの整った字を書くのはまだ難しいものの、褒められる機会が増え、積極的に取り組む姿が見られた。</li> <li>・1マス空けて次の問題を書くという作業はまだ難しいが、問題番号を書き入れることで、書き始める場所が分かりやすくなった。</li> </ul>
	授業後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複雑な漢字や間違った漢字については、ノートの隅に正しい漢字と間違った漢字を書かせ、違いを視覚的に捉えられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚的に捉えることで、自分で間違いに気付き、直すことができた。</li> </ul>

課題		手立て	変容
学習全体に遅れあり (Yくん)  場面緘黙で、1対1の学習になると話せなくなることが多い。かけ算やわり算、作文が苦手。	授業前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の準備を確実にできるよう声かけする。</li> <li>・座席を配慮する。(担任の指示が通りやすい場所、よい関係を築いている児童と同じ班)</li> <li>・学習全般に遅れがあるため、宿題は家庭と相談し、取り組める量だけ出すようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートの書き始めが早くなった。</li> <li>・気になった時に担任がすぐに声をかけに行くことができるので、授業への集中が高まった。</li> <li>・安心して宿題に取り組めるようになった。</li> </ul>
	授業時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア学習を取り入れる。</li> <li>・算数では問題数を減らし、図や記号、色を使いながら1問ずつ丁寧に解いていく。</li> <li>・T2が個別支援をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図や記号、色を使うことで、視覚的に問題を理解することができるようになってきた。問題の解き方をパターン化することにより、スムーズに取り組めるようになった。</li> </ul>
	授業後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休み時間にできなかった課題には、担任や友だちと一緒に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと一緒に学習することで意欲的に取り組めるようになった。</li> </ul>

課題		手立て	変容
不登校傾向 (Yさん)  小5の2学期から不登校傾向。小6は頑張っている。自己肯定感が低い。学力は高い。  (11月より教育センターと連携)	授業前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座席を配慮する。(よい関係の児童を隣の席や同じ班にし、安心して登校できるようにする。)</li> <li>・朝、体調や気分について声かけする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任や友だちに声をかけられることで、安心して登校できるようになってきた。</li> </ul>
	授業時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア等での学び合いや発表の機会を増やす。</li> <li>・認められる機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと認め合うことで、安心して学習に取り組めた。</li> </ul>
	授業後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での頑張りを認め、教師が声かけする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心して学習に取り組めた。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後、保護者の方に、今日の様子と頑張りについて電話で伝える。</li> <li>・就寝時間が遅く、朝起きられないことが多いので、寝た時刻と起きた時刻を書き込む表を作り、登校後に教師と一緒に書き込ませる。</li> <li>・遅刻してどうしてもクラスに入れない場合は、養護教諭と連携を取り、1時間程度、保健室で話をする。</li> <li>・教育センター教育相談室の相談員と連携する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の方からも本人を認めてもらえるようになってきた。</li> <li>・就寝時刻は変わらず、遅刻が多いので、家庭との連携が必要である。</li> <li>・気持ちを落ち着かせてから、安心して教室に入れるようになった。</li> <li>・校外の方と話をすることで、前向きに物事を考えられ、面談の翌日は明るい表情になっている。</li> </ul>

実践例5 中学3年生 すべての生徒が「できた・分かった」を味わうことができる、構造化された授業の在り方の検証

単元名 Sunshine English Course3 POWER-UP Speaking 電話② 伝言を受ける  
 (1) 本時の目標 電話での会話を聞いて、伝言メモをとることができる。(1/2時間)

過程	<p>主な学習活動</p>	<p>○指導上の留意点 ☆教育相談的な支援                  ◆評価(観点)【評価方法】</p>																																																																														
導入	<p>あいさつ歌</p> <div data-bbox="312 568 778 824" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>Can't Stop The Feeling!</b></p> <p>1 I got this feeling inside my bones                      2 It goes electric, wavy when I turn it on                      3 All through my city, all through my home                      4 We're flying up, no ceiling, when we in our zone</p> <p>5 I got that sunshine in my pocket                      6 Got that good soul in my feet                      7 I feel that hot blood in my body when it drops</p> </div> <p>ダンガンインプットを行う                  →ペアでの会話練習活動                  (隣・前後でのペアを日替わり)                  お互いのプリントを交換し、相手を読んだ回数をチェックしていく。                  相手を読めないところ、わからないところはペアが上手くヒントを出してあげる。1人2分ずつ。</p> <div data-bbox="312 1218 963 1675" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>ダンガンインプット No.4(Program5) Basic</b></p> <p style="text-align: center;">Class: _____ Name: _____</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Who's that girl?</td> <td></td> <td>あの女の子はだれですか。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>That's Alexandria.</td> <td></td> <td>アレキサンドリアです。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Excuse me?</td> <td></td> <td>もう一度書ってください。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>together?</td> <td></td> <td>ううん。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Yes, let's.</td> <td></td> <td>はい、そうしましょう。</td> </tr> </tbody> </table> </div>		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	Who's that girl?											あの女の子はだれですか。	2	That's Alexandria.											アレキサンドリアです。	3	Excuse me?											もう一度書ってください。		together?											ううん。	12	Yes, let's.											はい、そうしましょう。	<p>○英語らしい雰囲気になり替える。</p> <div data-bbox="791 524 1356 694" style="border: 1px solid red; border-radius: 15px; padding: 5px; color: red;"> <p>☆歌の間に生徒たちの授業準備ができてい                      るかを確認する。                      準備が遅くなってしまう生徒も歌の時間が                      あるので余裕を持って準備ができる。</p> </div> <div data-bbox="852 730 1356 878" style="border: 1px solid red; border-radius: 15px; padding: 5px; color: red;"> <p>☆「いまどこ？」となってしまったときの                      ために、歌詞の列の頭に番号を振って                      おき、「次○番だよ」と声をかける。</p> </div> <p>○机間指導し、読めていないところを一緒に練習                  する。</p> <div data-bbox="852 981 1356 1142" style="border: 1px solid red; border-radius: 15px; padding: 5px; color: red;"> <p>☆教師からだけでなく、生徒同士でわ                      からないところを学べる、教え合える関                      係を目指す。</p> </div> <div data-bbox="922 1240 1340 1411" style="border: 1px solid red; border-radius: 15px; padding: 5px; color: red;"> <p>☆自分で目標を決められるの                      で、自分の力に合わせて安心して活                      動ができる。</p> </div>
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12																																																																				
1	Who's that girl?											あの女の子はだれですか。																																																																				
2	That's Alexandria.											アレキサンドリアです。																																																																				
3	Excuse me?											もう一度書ってください。																																																																				
	together?											ううん。																																																																				
12	Yes, let's.											はい、そうしましょう。																																																																				
展開	<p>本時の目標</p> <div data-bbox="293 1751 865 1809" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>電話の会話を聞いて、伝言メモをとろう</p> </div> <p><b>New Words</b></p> <p>① フラッシュカード(英語)を見なが                  ら繰返し3回ずつ→2回ずつ→1回                  ② フラッシュカード(英語)を見なが                  ら生徒だけで1回読む</p>	<div data-bbox="906 1688 1356 1854" style="border: 1px solid red; border-radius: 15px; padding: 5px; color: red;"> <p>☆まずは単語の「文字」と「音声」を                      結びつけ、その後で意味を確認し                      て、「文字」と「音声」と「意味」を結                      びつける。</p> </div> <div data-bbox="842 1877 1356 2033" style="border: 1px solid red; border-radius: 15px; padding: 5px; color: red;"> <p>☆何度も何度も練習して、記憶に残る                      ようにする。                      ☆扱う単語の数や難易度、生徒の定着                      度に応じて練習回数を調整する。</p> </div>																																																																														

<p>③ 日本語の意味の確認  ④ フラッシュカード（日本語）を見ながらリピート1回  ⑤ フラッシュカード（日本語）を見ながら生徒だけで1回言う</p> <p><b>Listening Activity 1</b>  ①電話の会話の英語音声を聞いて、内容に関する日本語の問題に答える。  ② ①と同じ音声を聞いて、Script の穴埋めをする。(Dictation) →答え合わせをしながら、それぞれの表現の意味を確認する。</p> <p><b>Listening Activity 2</b>  電話の会話内容を聞き取って、伝言メモを完成させる。</p> <p><b>Reading Activity</b>  電話の会話内容を<u>読んで</u>、伝言メモを完成させる。</p> <p><b>Communicative Activity</b>  (ア) 電話での会話を練習する。  (イ) 歩き回ってペアを見つけ、会話練習をする。ジャンケンをして、勝った人がA役、負けた人がB役になる。  (ウ) 練習が終わったら相手のワークシートにサインをしておく。あとでこのサインがポイントになる。</p>	<div data-bbox="847 264 1358 495" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #f8d7da;"> <p>☆必要に応じて間を取ったり、ゆっくり読んだりする。  ☆全体での答え合わせの前に、自信を持って発言できるようにするため、周りの友達と答えを確認できる時間をとる。</p> </div> <p>◆電話の会話から必要な情報を的確に聞き取り、メモをとることができる。(理解)【ワークシート観察】</p> <p>○早く解き終わった生徒には発展的な問題を用意しておき、取り組ませる。</p> <div data-bbox="810 808 1385 1003" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #f8d7da;"> <p>☆音声情報から文字情報につなげていく。  ☆全体での答え合わせの前に、自信を持って発言できるようにするため、周りの友達と答えを確認できる時間をとる。</p> </div> <p>◆積極的に相手を見つけ、練習に取り組んでいる(関心・意欲・態度)。【観察】</p> <p>○活動前に十分にリピート練習させ、単語の読みを机間支援する。</p> <div data-bbox="831 1205 1369 1742" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #f8d7da;"> <p>☆様々な相手とペアを組ませる工夫</p> <p><b>1. Boys-Girlsキャンペーン</b>  異性と会話練習すると、ポイントが2倍になる日。男女間の会話を促す。</p> <p><b>2. Lucky Person</b>  ランダムに男女一人ずつをラッキーパーソンに選び、その人と会話練習をしたサインがあると、ボーナスポイントがつく。日付で選んだり(今日は5日だから出席番号5番の人など)、その月の誕生日の人を選んだりするので、ラッキーパーソンになりそうな人を選んで話しかけに行く姿も見られる。</p> </div>
<p>まとめ</p> <p>自己評価カードに記入する</p>	<p>○習った文法を使って英作文をさせたり、授業で学習したことをまとめさせたりして、生徒の言葉でのまとめをする。</p>



## V 研究のまとめと今後の課題

今年度の成果と課題について先に述べ、本研究のまとめとする。(○成果 △課題)

### (1) 授業の実践を通して

- 学級経営において、授業だけでなく様々な配慮を行ったことにより、学級全体の雰囲気は4月当初より明るくなった。
- 個に応じた手立てをとることで、児童が自信を持てるようになり、自分から友達や課題に関わろうとする姿勢が見られるようになった。
- 授業の中で、書字にかかる負担を減らすことで、課題解決に充てられる時間を確保することができるようになった。
- 日頃の生活や授業の中における何気ない配慮が、教育相談的配慮につながっていると気付くことができた。
- 小学校教諭が中学3年生の授業をじっくり見たことで、義務教育のゴールが明確になり、小中連携をより意識して授業を行うようになった。
- △個に応じた支援を中心に考えると、教師が個の児童生徒にかかる時間や労力がかかり、能力の高い児童生徒や集団まで手が行き届かなくなってしまうことがある。
- △すべての児童生徒への支援を行うには、授業のゴールや個々の児童生徒につけたい力を教師が明確に見極めておく必要がある。
- △集団の中でのコミュニケーション能力を高めるための配慮や工夫が必要である。

### (2) スクリーニングの実践、及びスクリーニングツールの作成を通して

- スクリーニングの実践を通して、児童生徒の見立ての視点を研究することで、児童生徒の特長を掴む力がついた。
- 小学1年生から中学3年生までの児童生徒の様子を見ることで、発達段階に応じた支援の仕方を見通せるようになった。小学6年生がゴールではなく、9年間を見通して生活と学習の両面の力を身に付ける必要性があると強く感じた。
- 小学校と中学校における児童生徒への支援の違いはほぼないことが分かった。小中連携を通じて情報共有を図り、適切な支援を継続することは、中1ギャップを減らす手立ての1つと考えられる。
- △スクリーニングを通し、児童生徒の特長を複数の目で確認できる良さを実感できたので、誰もが児童生徒を見立てられるように、学年や学校などの組織でスクリーニングの機会をもてるようにしたい。

2年間の研究を通し、児童生徒一人一人を理解し、教育相談的手法を取り入れることは、不登校予防や特別支援教育的な視点からも、すべての児童生徒への支援につながる事が再確認できた。また、支援の効果をより高めるには、一人一人のニーズに合った支援をいかに早期に行うかが、鍵になることも確かめることができた。さらに、個々の特性に合った支援方法を見いだした結果、次の共通の支援方法が見つかった。それは、『①認める・褒める②指示は短く③書いて示す』の3つである。

ここで示す①は、「児童生徒の実態をありのままに受け止め、本人の中での進歩やよりよい成長を児童生徒本人に伝える」ことである。②は、「口頭での指示は、誰もが分かる簡単な言葉で伝える」ことである。③は、「先の見通しを持たせたり、自分自身で確認させたりするために、指示や見通しを目に見える形にする」ことである。例えば、見通しをもって活動に取り組みさせるために、あらかじめ具体的にゴールを提示し、「何分までに」「何回」「何をすればよいのか」といった指示を板書に残すことにした。その結果、一人一人が目指すゴールをもち、安心して

活動に取り組めるようになった。このように、ひと手間かけて3つの共通支援を学年・学級で行うことで、教師側の負担を減らしながら、個をじっくり見たり、全体を広く見たりできるようになることが分かった。

さらに、授業に安心して取り組める環境づくりも必要である。例えば、座席の配慮や児童生徒同士のコミュニケーションの場の設定等、授業を行う前の支援も大切である。また、授業前には、学習に参加することへの安心感が必要になる。学習内容の理解が深まることで、よりスムーズな取組ができるからである。そして、授業後にも、より個に応じた支援が必要になる。例えば、本人ができたことやできなかったけれど取り組もうとした過程を称賛することで、本人の行動を価値づけたり、個別の支援から集団活動に戻したり、課題に対する抵抗感を減らしたりすることができるからである。

これらのことから、すべての児童生徒にとって、学校生活のあらゆる場面において安心感をもてることが大切であり、すべての教職員が児童生徒一人一人のより深い見立てや理解を得ておくことは、児童生徒の安心感の構築に役立つものである。

今後の課題としては、児童生徒一人一人の特長を掴むだけでなく、個や集団との関わりなども多面的に見取ることができるようにしたい。また、児童生徒の人間関係にも焦点をあてた支援を見だし、不登校の未然予防につなげていきたい。そして、校内でスクリーニングの機会を積極的に設定したり、本研究の資料にある【支援の共通ポイント】に取り組んだりすることの有益性を市内に広げ、「すべての児童生徒への教育相談的支援」につなげていきたい。

## 引用・参考文献

- ・桂聖 (2011) 国語授業のユニバーサルデザイン 東洋館出版社
- ・小貫悟・桂聖 (2014) 授業のユニバーサル入門 東洋館出版社
- ・文部科学省 中央教育審議会 特別支援教育の在り方に関する特別委員会 (第3回) 配付資料

## VI 資料

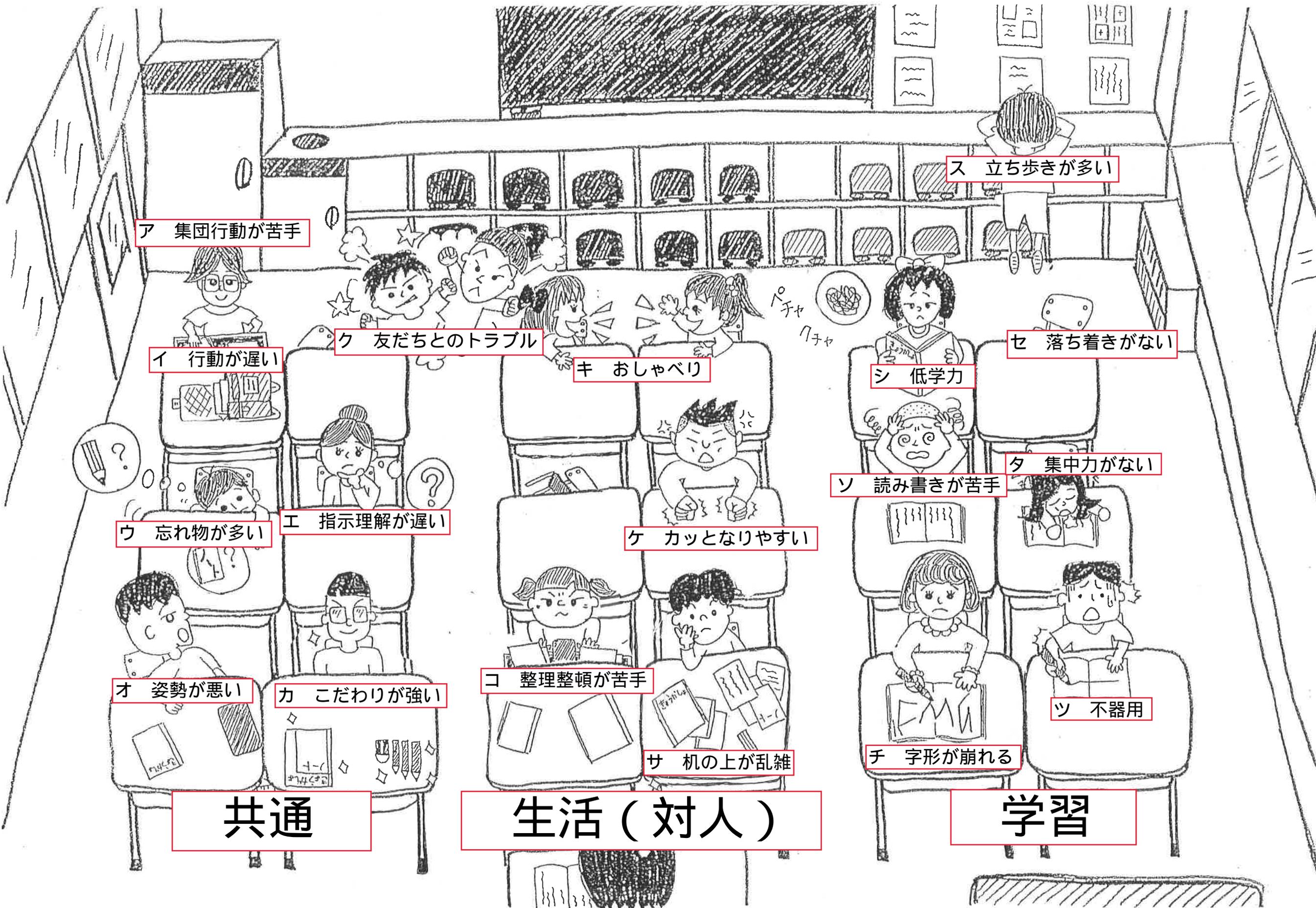
### 1 『気になる児童生徒への支援チェックシート』について

このチェックシートは、児童生徒を見立てる視点を「気になる児童生徒」として、18のカテゴリー（ア～ツ）に分けたものである。目次では、この18のカテゴリーを、校内でよく見られる子どもたちの様子として絵と記号に表し、探しやすい工夫を施した。目次の記号をたどって該当ページの部分を読むと、市内の先生方の引き出し（実際に行っている支援を簡潔にまとめたもの）を覗くことができる仕組みになっている。

すぐにでも手を差し伸べたい児童生徒に、どんな支援を行ったらよいか迷った時や、多くの支援はできないけれど、何か1つ取り組みたい時には、まず【支援の共通ポイント】をしっかり押さえることをお薦めする。それが、すべての児童生徒への教育相談的支援につながっているからである。

### 2 合理的配慮について

障害者の権利に関する条約「第二条 定義」においては、「合理的配慮」とは、「障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう。」と定義されている。



ア 集団行動が苦手

ス 立ち歩きが多い

イ 行動が遅い

ク 友だちとのトラブル

キ おしゃべり

セ 落ち着きがない

シ 低学力

タ 集中力がない

ウ 忘れ物が多い

エ 指示理解が遅い

ケ カツとなりやすい

ソ 読み書きが苦手

オ 姿勢が悪い

カ こだわりが強い

コ 整理整頓が苦手

ツ 不器用

サ 机の上が乱雑

チ 字形が崩れる

共通

生活（対人）

学習

# 資料 1 気になる児童生徒への支援チェックシート

## ①と②に共通してみられるもの

集団行動が苦手	行動が遅い	忘れ物が多い	指示理解が苦手	姿勢が悪い	こだわりが強い	おしゃべり
ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ

## ①生活（対人）

友だちとのトラブル	カツとなりやすい	整理整頓が苦手	机の上が乱雑
ク	ケ	コ	サ

## ②学習

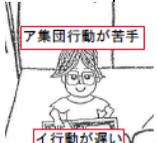
低学力	立ち歩きの多い	落ち着きがない	読み書きが苦手	集中力がない	字形が崩れる	不器用
シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ

## 気になる児童生徒への支援

**【支援の共通ポイント】** 情報収集⇒支援方針の設定,校内における役割分担,関係機関との連携,助け合える学級づくり (周囲の子どもからのサポート)

- 1 先の見通しを持たせ、指示は短い言葉で伝えましょう。さらに、書いて示すことも有効です。
- 2 目で合図などして本人を認めたり、できたこと・やろうとしたことなど本人の小さな伸びを褒めたりしましょう。
- 3 「(教職員や周りの子が) 困る子」ではなく「(本人が) 困っている子」です。子どもたちの気持ちを受け止め、理解しようと心がけましょう。そして、保護者とは信頼関係のもと、子どもたちのよりよい成長と一緒に見守る意識で、教職員とは共通理解のもと、組織で支援しましょう。

### ① 共通しているもの

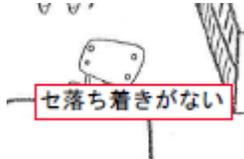
気になること	確認したいこと	市内の小中学校の先生方が取り組まれている、発達段階に応じた手立て	
		スタンダード	アドバンス
ア 集団行動が苦手 	・就学前の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールの確認をする。</li> <li>・活動の見通しを持たせる。</li> <li>・目が届く範囲でやや自由度のある活動をさせる。</li> <li>・SST※や体育などで体づくり運動を取り入れる。</li> <li>・周囲の子に声をかけさせて、しばらく見守る</li> </ul> ※SST→ソーシャルスキルトレーニングの略	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲と折り合いが付き、本人の負担のない範囲で手伝わせる。</li> <li>・単純なことを繰り返し、根気強く伝える</li> <li>・理由を話して理解させる。</li> <li>・訓練を積み重ねていく。</li> </ul>
イ 行動が遅い 	本人の困り感	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を伝えるなど、行動の見通しを持たせる。</li> <li>・タイマーを活用する。</li> <li>・周囲が自然と手伝える雰囲気を作る。</li> <li>・教師が集団を優先することで、皆と同じペースで行動する大切さを本人に意識させるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動教室の際、時間を意識することができる生徒に、負担のない範囲で声をかけてもらう。</li> </ul>
ウ 忘れ物が多い 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机の周り、自分の部屋の整理整頓ができていますか確認</li> <li>・保護者と本人の関係</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と連絡を取り、本人の困り感を伝える。</li> <li>・連絡帳やメモを活用する。</li> <li>・チェックリストを作成する。</li> <li>・自分で忘れないような工夫をさせる。 (例: ランドセルを開いたときに見えるポケットなど、自分が忘れないような目につく所に直接書いたり、メモを入れたりする)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望調査等、特別な提出物の場合、鞆を開けて目立つ所に目立つ物を入れておき、「何でこれが入っているのか？」→「提出物だ！」と思わせさせる。鞆を開けない生徒は鞆の持ち手など外に普段つけていない物をつける。</li> <li>・保護者と相談し、色付きファイルを活用する。</li> <li>・保護者間の横のつながりを促進する。</li> </ul>

<p>エ 指示理解が苦手</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴力の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しが持てるよう、活動の順序等を掲示する。</li> <li>・指示内容を可視化する。</li> <li>・ネームプレートを活用し、課題の進捗を確認する。</li> <li>・一斉指示を出した後、個別に指示・確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指示をする。</li> <li>・板書で指示をする。</li> <li>・図をふくめた指示をする。</li> </ul>
<p>オ 姿勢が悪い</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視力や生活習慣を確認する。</li> <li>・学力や意欲</li> <li>・体の状態</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や図で示す。</li> <li>・「ぐう・ピタ・ピン・サッ」など姿勢がよくなる校内共通の合言葉で、時々確認する。</li> <li>・「〇〇さん、いい姿勢だね」と他の子を褒める。</li> <li>・「具合が悪いの？」と声をかける。</li> <li>・隣の人と確認し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢が良い時のメリット、悪い時のデメリットを説明する。</li> <li>・姿勢が悪いとどうなるか、具体的になぜそうしなければいけないかを伝える。</li> <li>・前に良いモデルの図をはる。</li> </ul>
<p>カ こだわりが強い</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなことにこだわりを持っているのか、把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日や1時間の学習の流れを目で見えるように掲示する。</li> <li>・ノートや板書、活動をパターン化する。</li> <li>・他の方法を提案したり、全く違う話題を話してみたりして、気持ちをこだわりから転換できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の生徒にも価値観（個性）を認めさせるような話をする。</li> <li>・心をほぐす。（話をたくさんする）</li> </ul>
<p>キ おしゃべり</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どういう時におしゃべりをするのかを把握する。（一斉指示を出すとき、静かな場面するときなど）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座席位置の配慮をする。（前の方など、声がかかりやすい場所や集中できる場所にする）</li> <li>・何をやる時間なのか考えさせる。</li> <li>・何度か続けて指名する。（1回だけだと、その後すぐ安心して喋り出すので）</li> <li>・静かになるまで待つ。</li> <li>・学級活動などで取り上げ、学級全体で考える時間をつくる。</li> <li>・授業を構造化し、先の見通しを持たせる。</li> <li>・約束を決める。（ハンドサイン等を有効に使う）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左に同じ</li> </ul>

② 生活（対人）

気になること	確認したいこと	市内の小中学校の先生方が取り組まれている、発達段階に応じた手立て	
		スタンダード	アドバンス
ク 友だちとのトラブル 	<ul style="list-style-type: none"> <li>• これまでの出欠席の状況</li> <li>• 言葉遣いなど人との関わり方のスキル</li> <li>• 前年度の学年や、転入前の学校での人間関係</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 複数の教員で本人の話を聞き、日頃から様々なサポートをしてもらえるようにする。</li> <li>• 何が良くて何がだめなのかをはっきりさせる。</li> <li>• 事前指導をする。（トラブルが起きる前に）</li> <li>• SSTを取り入れたり、<b>QU</b>※を活用したりする。</li> <li>※<b>QU</b>→学級満足度尺度を図るアンケート調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本人と約束づくりをする。</li> <li>• クラス内のルールづくりをする。（話し合い）</li> <li>• 落ち着けるスペースをつくる。（専用別室）</li> <li>• お互いの気持ち（逆の立場ならどうか）を考えるねらいを持った道徳の授業を行う。</li> <li>• 私が主語（Iメッセージ）の声掛けで伝える。</li> </ul>
ケ カッとなりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 児童への保護者の関わり方（保護者も同じ傾向があるか）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 落ち着いた声で話をする。</li> <li>• 落ち着ける場所、冷静になれる場所をつくる。</li> <li>• カッとなった時の合図や回避方法を決めておく。</li> <li>• 「その場を離れる」「深呼吸」などの<u>アンガーマネジメント</u>※の方法を伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 別室でのクールダウンを促す。</li> <li>※<u>アンガーマネジメント</u>→怒りの感情をコントロールすること、その手立て</li> </ul>
コ 整理整頓が苦手 	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本人の困り度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 絵や写真で、整理の仕方や手本を提示する。</li> <li>• 必要な物とそうでない物を一緒に確認する</li> <li>• 最初は整理整頓を手伝い、少しずつ自分でできるようにさせる。</li> <li>• 「とりあえずボックス」を活用する。</li> <li>• 「大事な××がゴミになってしまうよ」と伝える。</li> <li>• クレヨン・クーピーは道具袋に入れさせる。</li> <li>• 下校時に引き出しを出させるなど、週1回以上、整理整頓を行う時間を設けることで、無意識に整理整頓を習慣化させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 周囲の生徒も手助けできるよう、協力体制をつくるための話し合いを設ける。</li> <li>• 「とりあえずフォルダ」の活用をする。</li> </ul>
サ 机の上が乱雑 	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 乱雑になる背景を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 整頓の仕方を教える。</li> <li>• 写真で手本を提示する。</li> <li>• 授業毎に机の上の物（必要な物とそうでない物）を確認する。</li> <li>• すっきりすることのよさを実感させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 授業前に、周囲と相互確認させる。</li> <li>• 出すものが少なくなるように指示する。</li> </ul>

③ 学習

気になること	確認したいこと	市内の小中学校の先生方が取り組まれている、発達段階に応じた手立て	
		スタンダード	アドバンス
シ 低学力 	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達との関わり方、友人関係</li> <li>教研式(SS)を実施した際、数値を確認(教育相談部会や就学相談につなげるか検討)</li> <li>就学時健診時の様子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>座席位置の配慮をする。(教師の目が行き届く所・よい手助けをしてくれる子を周りに配置)</li> <li>個別課題の学習やヒントを活用する。</li> <li>保護者と連絡を取り、宿題等の量を調整する。</li> <li>課題の与え方を工夫する。(簡単な方法で、分かりやすく、スモールステップで)</li> <li>具体物を使う。(算数や理科には特に有効)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>段階に応じた課題を提示する。</li> <li>隣の席に面倒見の良い子をつける。</li> <li>反復学習を行う。(漢字練習や視写など)</li> </ul>
ス 立ち歩きが多い 	<ul style="list-style-type: none"> <li>ADHD等の診断の有無</li> <li>故意なのかどうか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルールの確認をする。</li> <li>授業中の約束事を決める。</li> <li>座席の配慮をする。</li> <li>目で合図を送る。</li> <li>複数の教員で支援をする。(T2なども含め)</li> <li>授業の中で、歩いてよい時間を意図的に作ってみる。(話し合い活動や作品の見合いの時間等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年や学校全体で、共通理解を持って指導する。</li> <li>落ち着ける場所でクールダウンをしたり、話をしたりする。</li> </ul>
セ 落ち着きがない 	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の実態(学習能力など)の把握</li> <li>家庭環境や生活リズムの把握</li> <li>出欠状況</li> <li>就学時検診の様子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「落ち着けているね」などの合図を決める。</li> <li>落ち着くまで静かに待つ。</li> <li>指示を板書したり、掲示したりする。</li> <li>活動に見通しが持てるように、はじめと終わりを明確にする(流れの提示)。</li> <li>活動の内容を可視化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目を合わせる機会を増やす。(目で叱る、目で笑う、目でうなずく)→安心感を持たせる。</li> <li>意図的に動く活動を取り入れる。(プリントを配らせる、カーテンを閉めさせるなど)</li> <li>声の強弱を上手につかって指示を出す。</li> <li>やることリスト(チェック☑付き)を作る。</li> <li>帰りの会などで、黙想を行う。</li> </ul>
ソ 読み書きが苦手 	<ul style="list-style-type: none"> <li>眼球や手の動き、視力などに課題がないか</li> <li>教研式(SS)を実施した際、数値を確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>耳から覚えるよう、音源を使う等の工夫をする。</li> <li>教科書等の本文で1行だけに見えるようにする。</li> <li>なぞって書く活動を多く取り入れる。</li> <li>教科書の文字を拡大する。読み仮名をふる。</li> <li>読んで聞いているところを指でなぞらせる。</li> <li>分かりやすく視覚化する。近くに手本を置く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態に合わせ、「読みたい」と思う本をすすめる。</li> <li>簡単な本で読む習慣をつける。</li> <li>写す練習をさせる。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くマス目や行を大きく（広く）する。</li> <li>・作文では、定型文など型を提示する。</li> </ul>	
<p>タ 集中力がない</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ADHD 等の診断の有無</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机の上には、必要な物だけ出すように指示する。</li> <li>・教室の前面には、極力掲示物を貼らない（薄い色目の無地のミニカーテンなどを付けて隠す）。</li> <li>・授業の流れをパターン化する（次に何をやるか、見通しを持たせる）。</li> <li>・授業の中で、意図的指名をする。（複数回指名をし、話を聞く意識を作る）。</li> <li>・手指遊びなどの動作を合間に入れる。（主に低学年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動などを通して、周囲の生徒にも声掛け等を促す。</li> <li>・授業のユニバーサルデザインを心掛ける（授業の流れを同じにする）。</li> <li>・掲示物は貼る位置や量、色合いに気を付ける。</li> <li>・棚にカーテンなどをつけ、注意が散漫にならないようにする。</li> <li>・本人の集中できる状態を確認する（場所、時間、教科、活動内容、座席の配置など）。</li> </ul>
<p>チ 字形が崩れる</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手先を使った作業の様子</li> <li>・学習能力の把握</li> <li>・教研式(SS)を実施した際、数値を確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぞって書く活動を多く入れる。</li> <li>・正しい鉛筆の持ち方を意識させる。（図や写真）</li> <li>・「とめ・はね・はらい」を意識させる。</li> <li>・マス目や罫線が入っているものを使う（マス目の大きさや罫線の太さを工夫する）。</li> <li>・個に合った目標を設定し、できたこと、できていることを褒める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを工夫する。</li> </ul>
<p>ツ 不器用</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習能力の把握</li> <li>・教研式(SS)を実施した際、数値を確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒に作業をしたり、周囲が自然と手伝える雰囲気を作り出したりする。</li> <li>・活動の時間を多く（長く）とる。</li> <li>・指示は、段階を追った細かいステップで、丁寧に出す。</li> <li>・見本を1つ作り、真似してもよいことを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左に同じ</li> </ul>